

■戸閉合図装置

駅係員から車掌に列車の扉を閉める時機を知らせる装置で、京阪線12駅に設置されています。ラッシュ時やイベント開催の多客時等に使用され、扉開閉時の事故防止に役立っています。



戸閉合図装置 (ホーム上屋に設置)

大津線の安全対策

■併用軌道監視装置

大津線では、京津線の一部(浜大津駅～上栄町駅約600m)および石山坂本線の一部(浜大津駅～三井寺駅約400m)が併用軌道(道路上に敷設された軌道)であり、交通渋滞、不法駐車等で電車の通行に支障を及ぼすことが多いため、道路監視用カメラ(12台)を設置し運転指令所でのモニターテレビ(11台)により電車の運行状況や道路状況を監視しています。特に浜大津駅～三井寺駅間は夜間に駐車違反車で列車が通行不能になることがあり、指令所でモニターテレビを通して不法駐車をしようとする自動車を発見した場合、駐車違反である旨を放送装置により自動車のドライバーに告知して注意を促しています。



併用軌道監視モニターテレビ

■限界支障検知装置

曲線半径200m以下の曲線部に設置しており、列車が何らかの障害で対向線路にはみ出し限界支障検知棒に接触したとき、特殊信号発光機を明滅させ、対向および後方列車に異常を知らせます。

京津線13カ所(検知棒78本、特殊信号発光機34機)、石山坂本線15カ所(検知棒102本、特殊信号発光機40機)に設置しています。

■自動車侵入検知装置

三井寺の併用軌道(道路上に敷設された軌道)と専用軌道(専用の敷地内に敷設された軌道)の境界(三井寺併専用境界)付近は、道路構造上、夜間に自動車が誤侵入する可能性があります。三井寺併専用境界付近には、自動車侵入検知装置のほかにも大津線独自で作成したLED表示板および矢印灯で夜間、自動車のドライバーに注意を促して誤侵入防止に努めています。



三井寺併専用境界

memo

鉄道事業では、運転部門が乗務員(運転士と車掌)を中心に電車の運転を支えています。それに対して、電気、保線、車両、土木等の技術部門は、運転の土台となるインフラを支えています。具体的には以下のような役割があります。

電気部門 電気の供給、信号等安全機器の保守等

工務部門 線路および土木構造物の保守整備等

車両部門 車両の整備等

(注)各部門の機能をわかりやすく記載したもので、当社の組織名とは一致していません。